

# もりおかのお茶

古澤元雄

盛岡市のやや東、郊外近くに県社八幡宮があり、その裏一帯の地名を茶畑と云います。ここはその名の通り、今から420年以上も前に、当時の殿様《南部家26代信直公》が、大和の国の茶商高村久助氏を招き、お茶を植えさせたところなのです。南部の殿様は、大和から買い入れなければ飲めないお茶を、地元で栽培して、自前のお茶を飲みたかったのだろう、と推測されます。そしてこの地が選ばれたのは、盛岡八幡宮を含む丘陵で囲まれた地形で、盛岡では一番温暖だからなのです。しかし、当時盛岡は、大和の国とは比較にならない寒冷の地ですから、このお茶栽培の試みは成功しませんでした。全て枯れたものと思われています。ところが、茶畑のすぐそばの上小路に住む、当時南部藩の武士だった古澤家の庭にたった一本、大事に育てられて残っていたのです。市の指定保存木にもなっていました。

420年も自然のままに育てられてきた、このお茶の木は、どんな雪にも嵐にも負けない盛岡在来種になっていて、耐寒性は抜群であり、静岡の茶樹試験場では富士山麓高標高地の茶畑用として、この木を交配母木に使用しているくらいなのです。

このお茶に目を付けたのが、この地に昭和の時代に住み旧交を温めていた「上小路会」の面々でした。

「せっかく茶畑に住んでいて、御茶の樹もあるのだ、盛岡の人達に御茶を作って御馳走しようではないか」ということになったのです。

それから2年余、開催場所はどこがいいか？ お茶の作り方は？ 記念講演はどうする？ 予算は？ と色々苦労し検討を重ねた結果、ついに「上小路会30周年記念・盛岡の御茶の会」を平成31年6月16日、場所は盛岡市鉾屋町「町家物語館」での開催にこぎつけました。

当日はあいにくの雨でしたから、お客さんが果たして来てくれるか心配でしたが、ふたを開けてみたらお客様は80名を超え、ホールは満席でした。お茶は地元のお茶屋さん「繁田園」の社長が応援に駆けつけ、腕によりをかけ淹れてくれたお茶です。やや甘みがあってトロリとした味です。皆さんは、まず匂いをかいであれっというような顔をし、一口飲んでから「おいしい」と言ってくれました。周りには、一日かけて芽を摘み、蒸して炒って揉んで精製した会員達の満足そうな顔が並んでいました。



写真1 お茶の苗木

お茶の後は、「上小路今昔物語（古澤元雄）」と「盛岡南部茶に思いを寄せて（前田千香子）」の講演がありましたが、熱心に聞いて貰えました。そして、最後のフィナーレは、なんとお客様全員に「お茶の苗木のプレゼント」でした。会員がみんな、前記の420年

も昔から生きてきた、御茶の木の下から実を拾って、一年かけて大事に育てたポット入りの実生苗です。勿論、その育て方のメモも一緒です。

お客様が喜んで受け取るのを見ている、上小路の会の面々の嬉しそうな顔ったらありませんでした。

(原稿受付 2020. 6. 7)



写真2 お茶は椿の仲間で、このようなお花が咲きます。育てて、400年前を味わう